

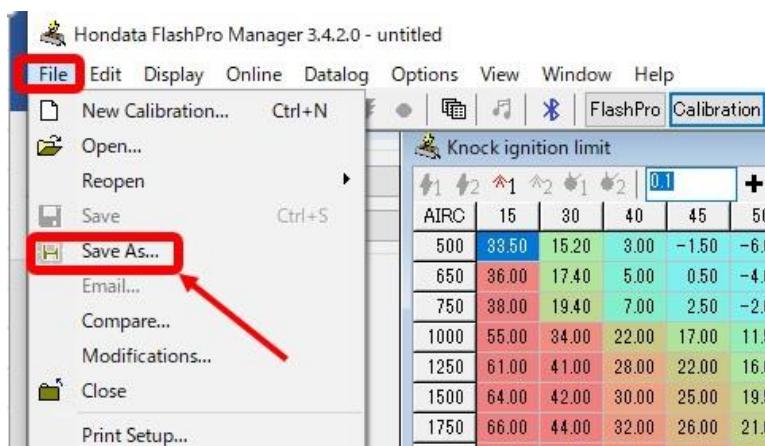
FlashPro 基本操作マニュアル

(注意) 作業中に電圧が低下した場合、ECU が壊れてしまう可能性があります。予備バッテリーの接続を推奨します。

(注意) データのアップロード中に、イグニッション OFF にしたり、OBDII ポートや USB ポートからケーブルを抜いたりしないようにして下さい。

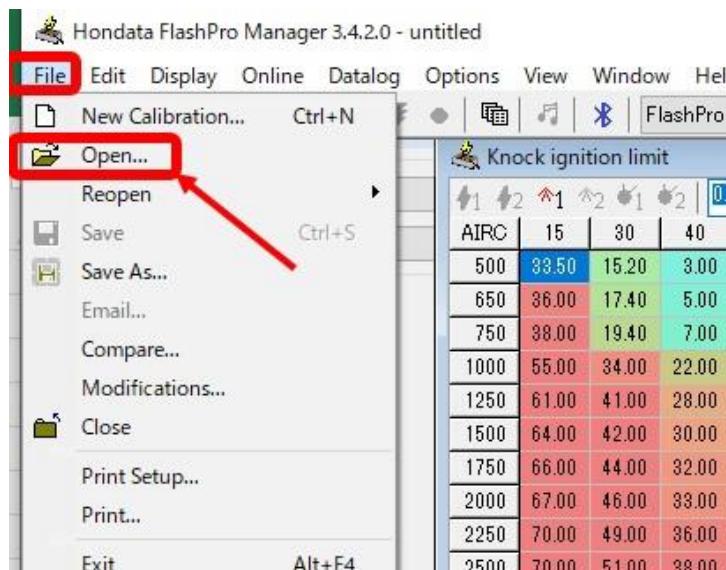
A. キャリブレーションの保存の仕方

①キャリブレーションの設定・変更をしたら、その都度パソコンに保存することを推奨します。



②画面左上の<File>をクリックし、<Save As>をクリックすると、ソフトウェアインストール時に作成した「FlashPro Calibrations」フォルダが開きますので、名前を付けて保存します。

B. 保存したキャリブレーションの開き方

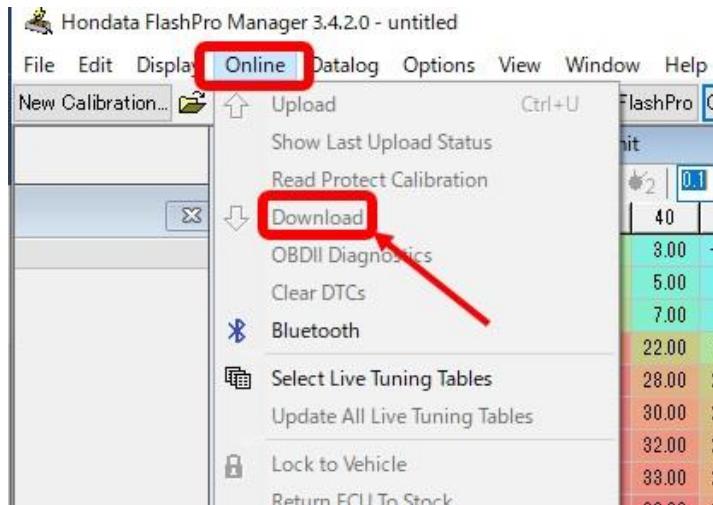


画面左上の<File>をクリックし、<Open>をクリックします。

保存先の「FlashPro Calibrations」フォルダを開き、キャリブレーションを選択します。

C. 車両側キャリブレーションの吸出し【Download】の仕方

現状の車両側に書き込み【Upload】されたキャリブレーションを確認・変更する場合は以下の手順でパソコンに【Download】します。



①Flashpro 本体を車体側の OBD II カプラに接続します。

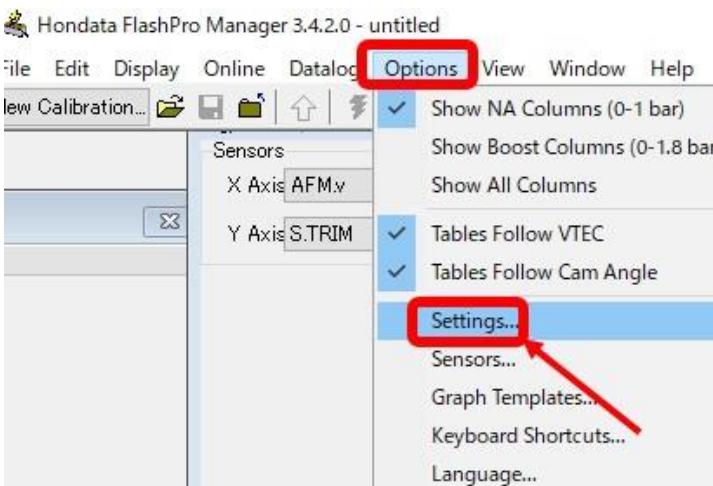
②Flashpro 本体とパソコンを USB コードで接続します。

③イグニッション ON の状態で、エンジンは掛けないでください。

④<Online>タブをクリックし、<Download>をクリックすると数秒でパソコン上に現状のキャリブレーションがダウンロードされます。

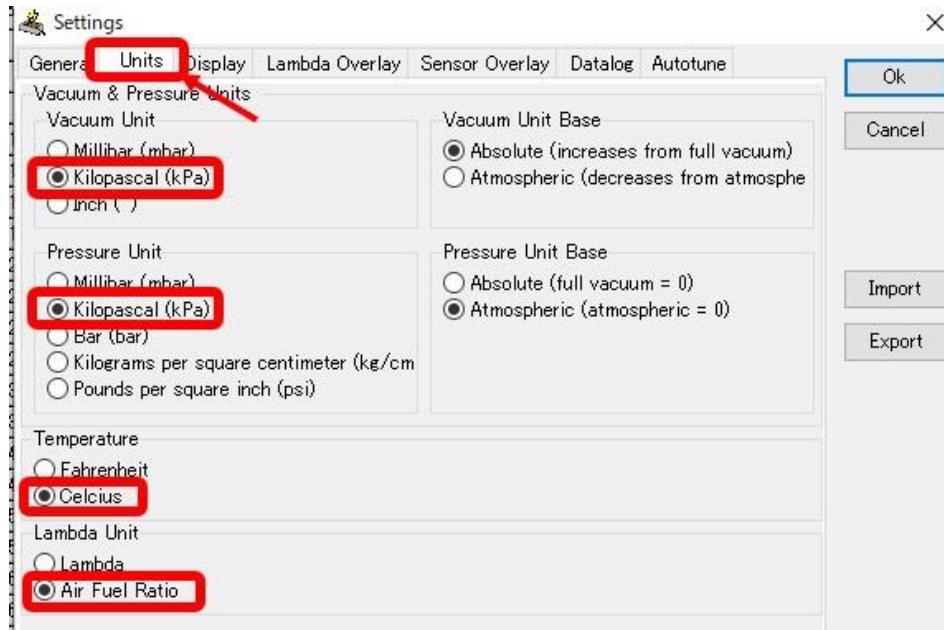
D. センサーの単位設定

テーブルウィンドウに表示されるセンサーの単位を設定します。



①<Options>タブをクリックし、<Settings>をクリックします。

② 「Settings」画面が開いたら <Units> をクリックし、下記のように圧力、温度、空燃比の単位を選択します。



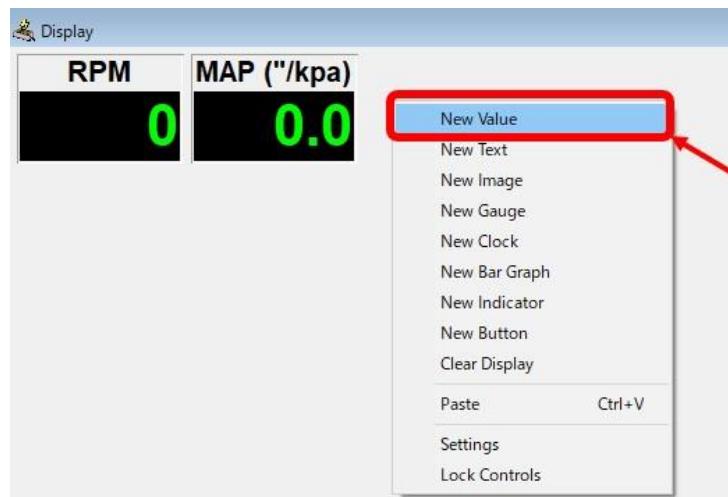
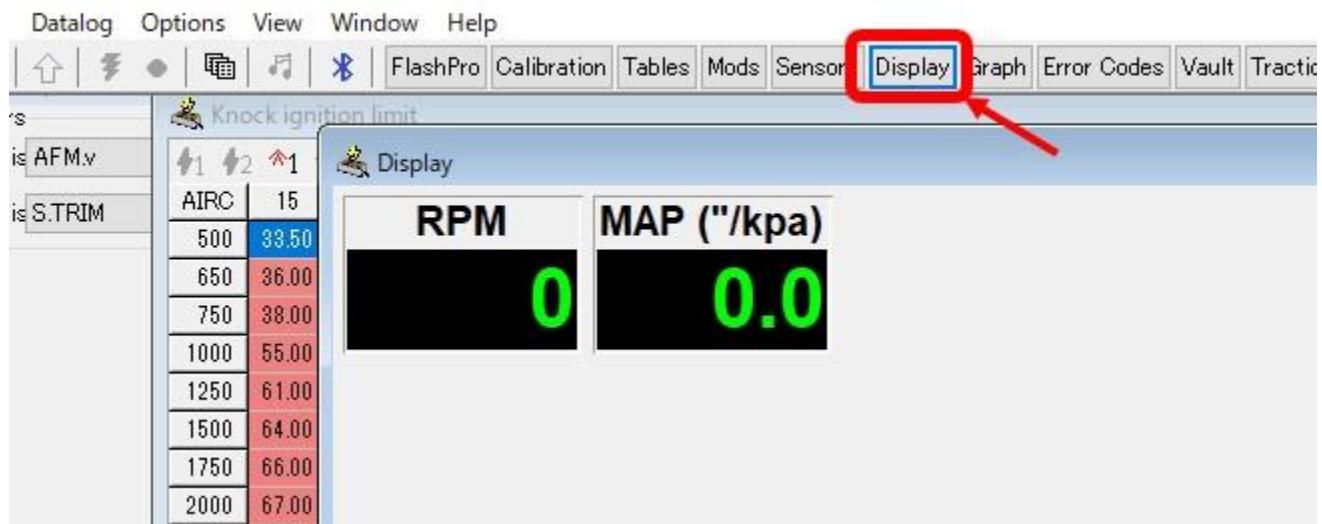
E. 各センサーの名称・内容

センサー名	内容
RPM	クランクポジションセンサーから算出されたエンジン回転数
VSS	車速センサー
Gear	ギアポジション
MAP	マニホールド絶対圧
BP	ブースト圧力
BPCMD	ECUが要求しているブースト圧力
WG	ウェイストゲートが開いている量を表示します
WGCMD	ECUが要求しているウェイストゲートが開く量を表示します
Tpedal	スロットルペダルの位置を0～100%で表示します。
Tplate	スロットルのバタフライの開度を0～100%で表示します。
AFM.V	エアフローメーターセンサーの電圧
AFM	エアフローメーターのマスフロー。単位は1グラム/秒で表示します。
INJ	インジェクター。ミリ秒単位で測定されます。
Duty	インジェクターのデューティサイクル
DIFP	直接噴射燃圧
DIFPCMD	ECUが要求している直接噴射燃圧
IGN	点火時期
IAT	吸気温度
IAT2	吸気温度2（インターフーラー後の吸気温度）
ECT	エンジン水温
CAM	吸気カム角度
CAMCMD	ECUが要求する吸気カム角度
EXCAM	排気カム角度
EXCAMCMD	ECUが要求する排気カム角度
AF	空燃比
S.TRIM	短期燃料トリム。短期間の燃料トリムは、目標空燃比に近く保つためにエンジンへの燃料供給を修正する際に閉ループでのみ使用される。通常、短期間の燃料トリムは-10%から+10%の範囲内でなければなりません、そうでなければ燃料マップを部分スロットルで調整する必要があります。
L.TRIM	長期燃料トリム。短期燃料トリムに基づく長期の燃料トリム
TRIM	長期と短期の燃料調整の組み合わせ
Fuel Status	燃料システムの状態。オープンループまたはクローズドループの表示
K.Level	ノックレベル。%表示
K.Retard	ノックリタード量。度で表示
K.Control	ノックコントロール値。%表示
Ign.Limit	点火時期リミット。度で表示
K.Count	各シリンダーのノック数のカウント。
PA	大気圧
BAT	バッテリー電圧
VTS	VTECスプールバルブ
Eco	ECUによって計算された燃費
Fuel Used	ECUによって計算された使用された燃料の量

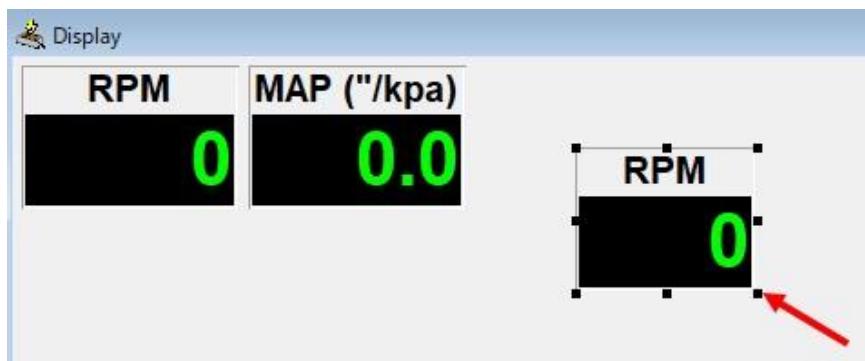
F. ディスプレイのセンサーの追加の仕方

①<Display>タブをクリックし、「Display」画面を表示します。

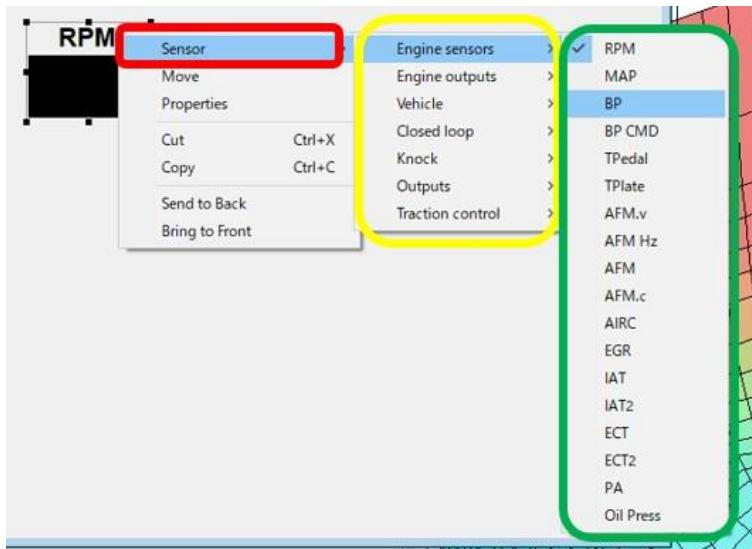
er 3.4.2.0 - untitled



②デジタルメーターを追加する場合、Display上で右クリックをし、【New Value】を選択します。



③仮のデジタルメーターが追加されますので、それを右クリックします。



④【Sensor】を左クリックし、黄枠からセンサーの種類を選択。

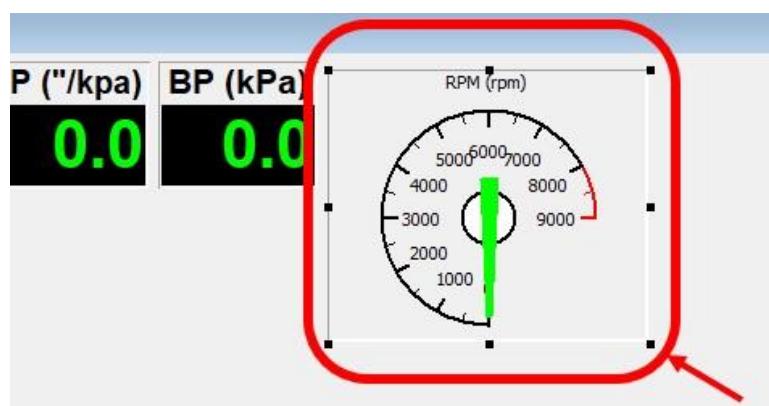
⑤緑枠から追加したいセンサーを選択します。

(参考)

アナログメーターを追加したい場合は、上記②で【New Gauge】を選択します。

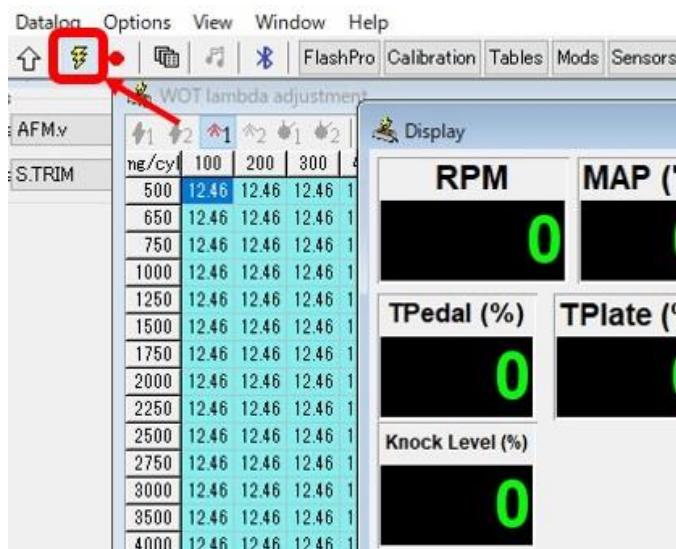


上記④～⑤を繰り返します。



G. ディスプレイの表示の仕方

- ① Flashpro 本体を車体側の OBD II カプラに接続します。
- ② Flashpro 本体とパソコンを USB コードで接続します。
- ③ エンジンを始動します。



④左記矢印のボタンをクリックし、黄色に点灯するすると車両 ECU と通信が開始し、各センサーの数値が表示されます。

<注意>

④のボタンをクリックしても黄色に変わらない場合、クリックできない場合、パソコンがフリーズした場合は、車両側 ECU との通信が出来ていません。その場合は、以下の手順で接続しなおしてください。

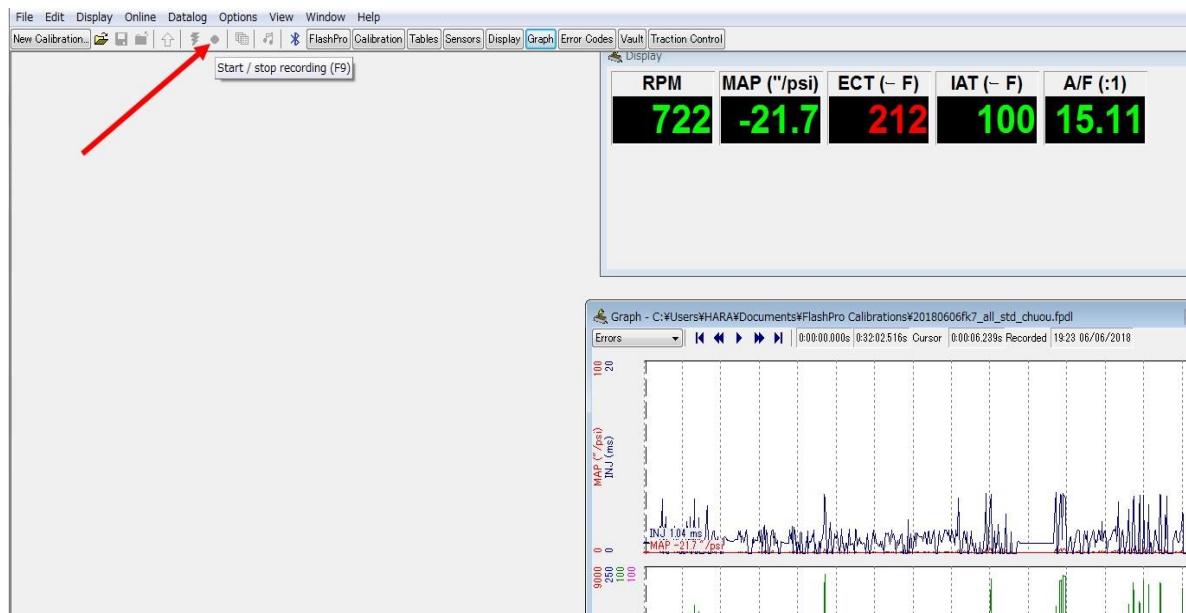
- (A) FlashPro 本体とパソコンを接続している USB ケーブルを抜く。
- (B) FlashPro 本体を車両 OBD II カプラから抜く。
- (C) Flashpro 本体を車両 OBD II カプラに再度接続する。
- (D) FlashPro 本体とパソコンを USB ケーブルで再度接続する。
- (E) 再度上記④のボタンをクリックし、黄色に点灯することを確認します。

H. データロギング

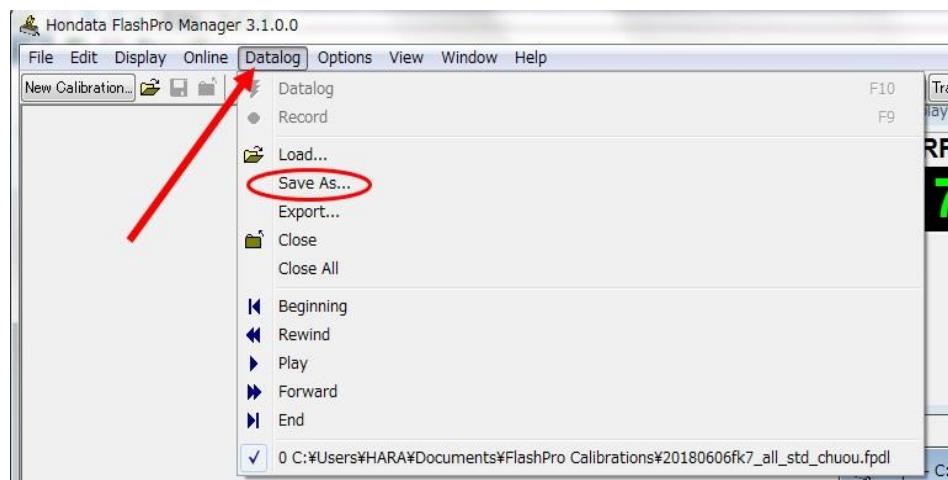
①データの取得方法

取得方法 A

I、パソコンの F9 キーもしくは下記の赤丸ボタンを押すとデータログのレコードが始まります。



II、もう一度 F9 キーもしくは下記の赤丸ボタンを押すとレコードが終了しますので<Datalog>タブの<Save as>をクリックし、保存して下さい。



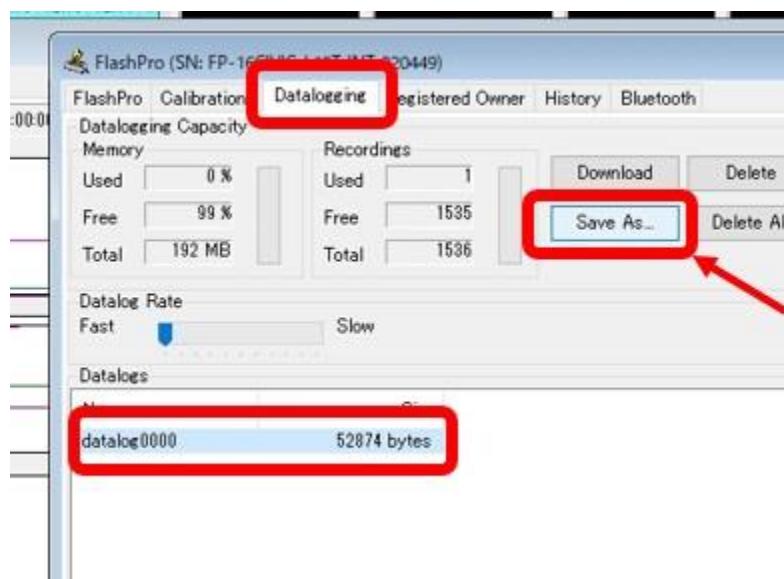
取得方法B

- I、 Flashpro 本体を車両 OBDⅡに接続した状態で、下図の「Datalog」ボタンを長押しし、「Datalog light」の点滅間隔が遅くなったらデータログのレコードが始まります。



- II、もう一度「Datalog」ボタンを長押しすると、レコードが終了します。

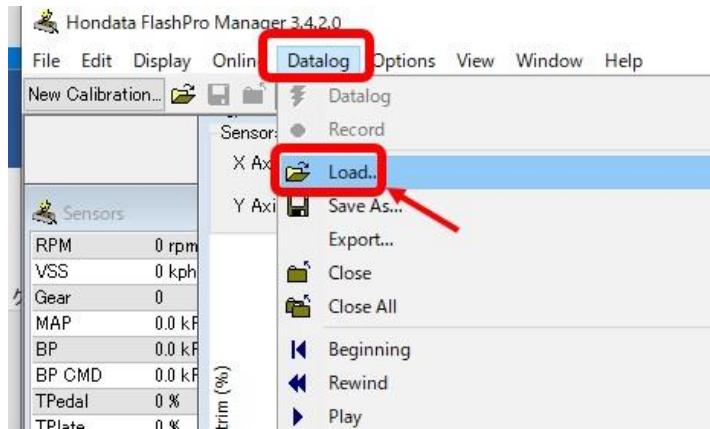
- III、ノートパソコンと Flashpro 本体の USB ケーブルを接続し、<FlashPro>タブをクリック。



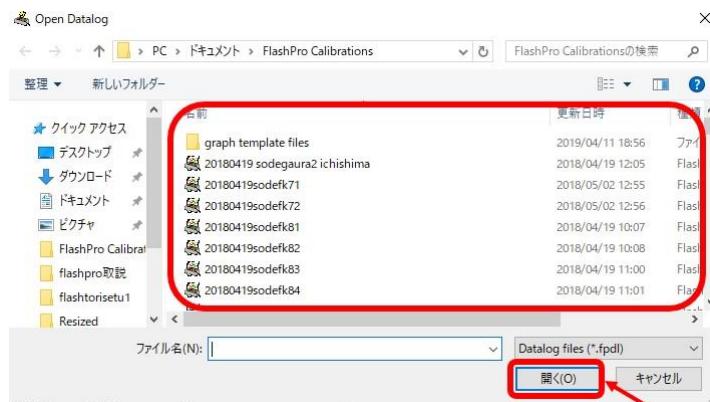
IV、左図の<Datalogging>タブをクリックし、保存されたログを選択します。

V、<Save As>をクリックし、名前を付けて保存してください。

②データの開き方

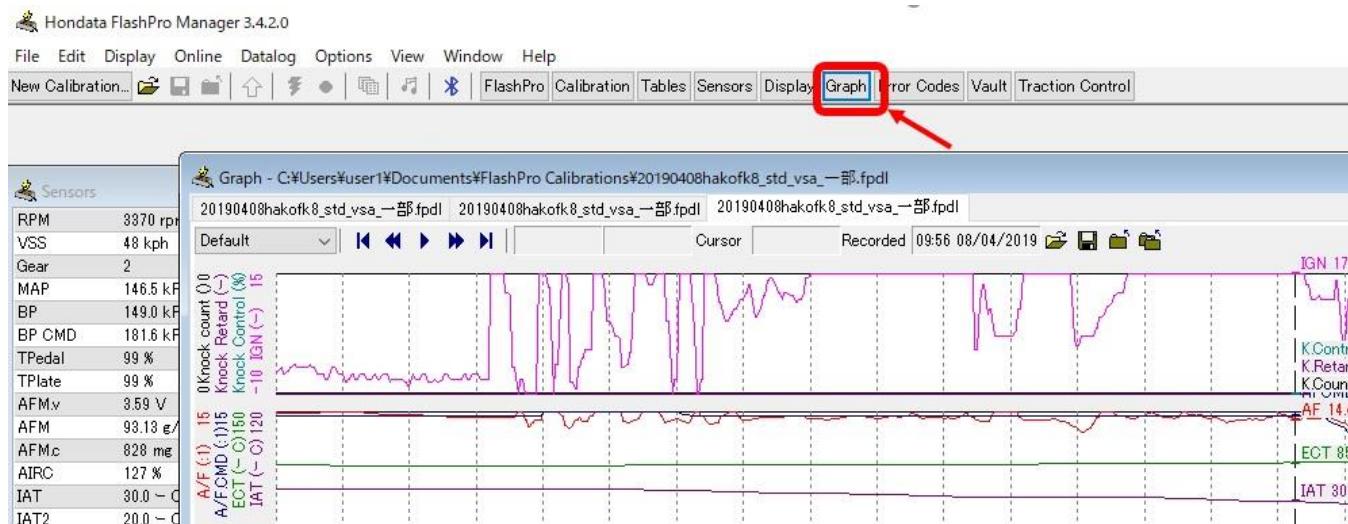


I、<Datalog>タブをクリックし、<Load>をクリックします。

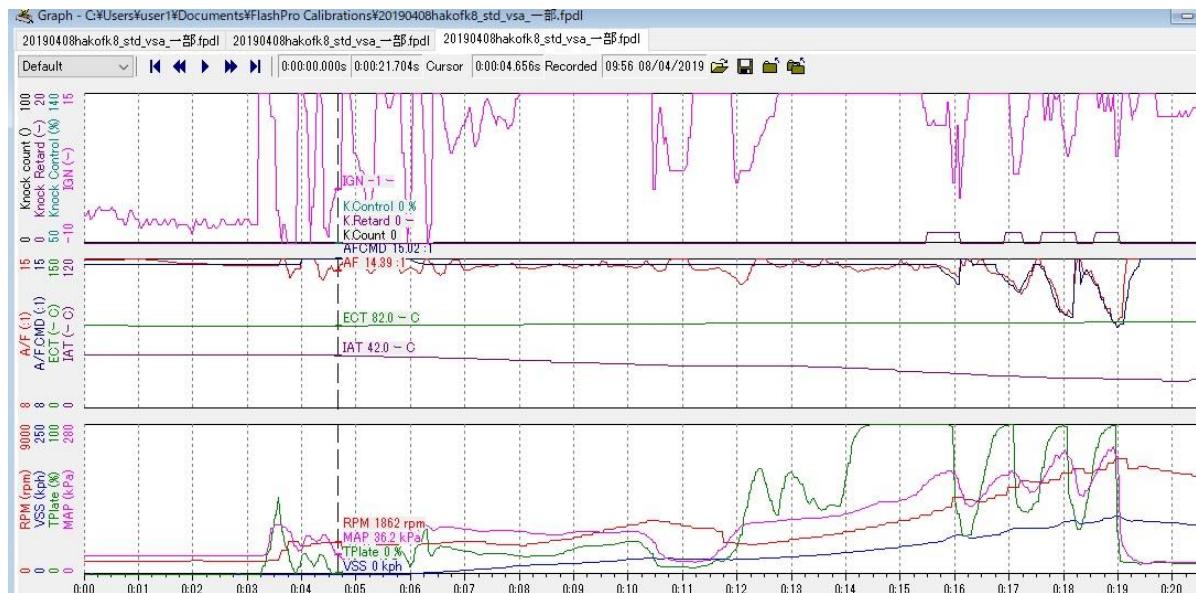


II、フォルダから開きたいデータを選択し、<開く>をクリックします。

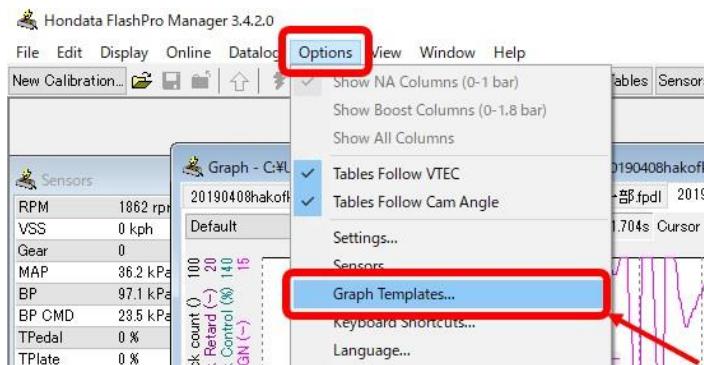
III、<Graph>タブをクリックすると、取得したデータグラフが表示されます。



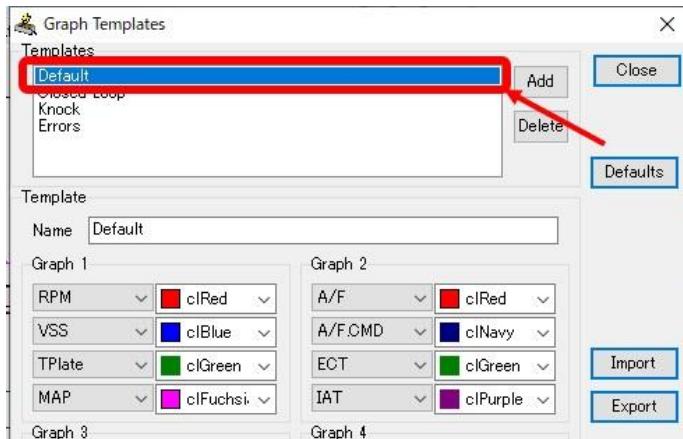
I. グラフの設定



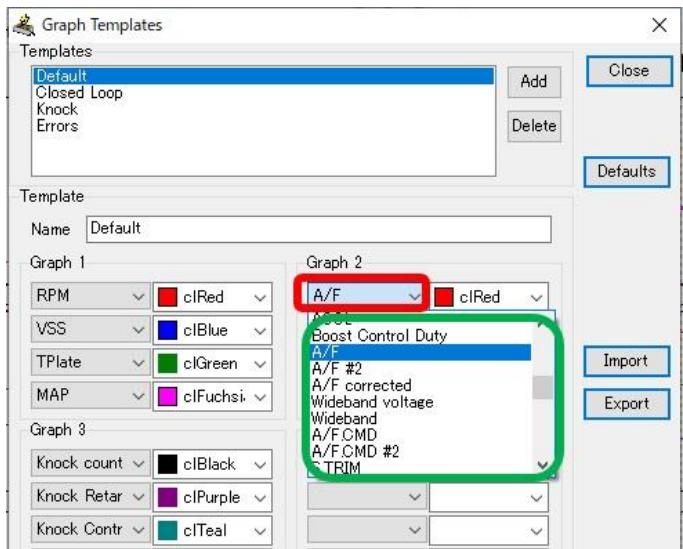
- ① グラフに表示したい各センサーを設定します。
 - ② <Options> タブをクリックし、<Graph Templates> をクリックします。



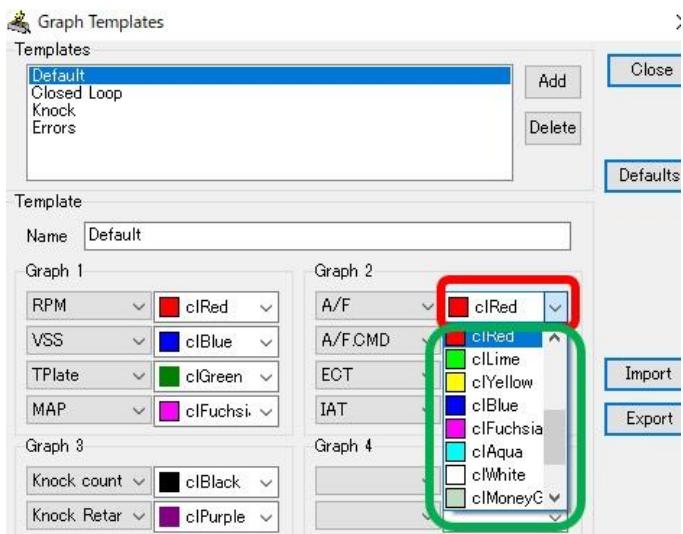
③ センサーを追加したい「Graph Template」を選択します。



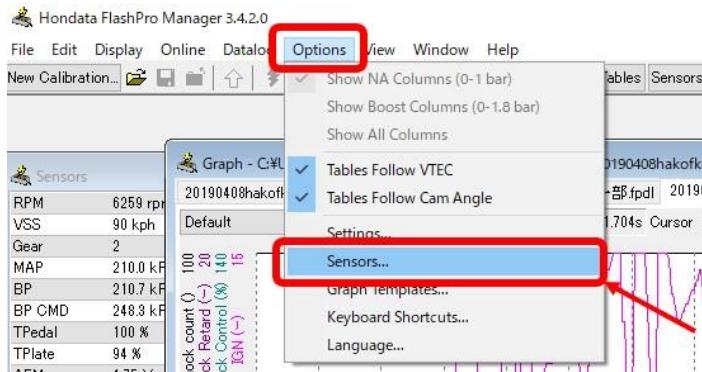
④ Graph1～4の中から追加したいグラフを選択します。



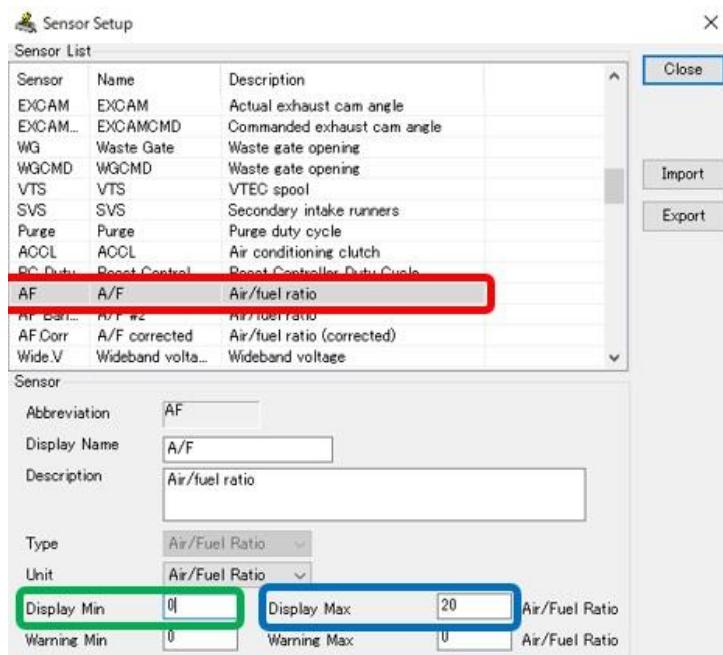
例) Graph 2 を選択し、緑枠の中から[A/F]センサーを選択します。



A/F センサーのグラフ色を選択します。



グラフ内の各センサーの表示範囲を変更する場合は、<Options>タブをクリックし、<Sensors>を選択します。



「Sensor Setup」画面で、センサーを選択し、「Display Min」にセンサーの最小値を入力。

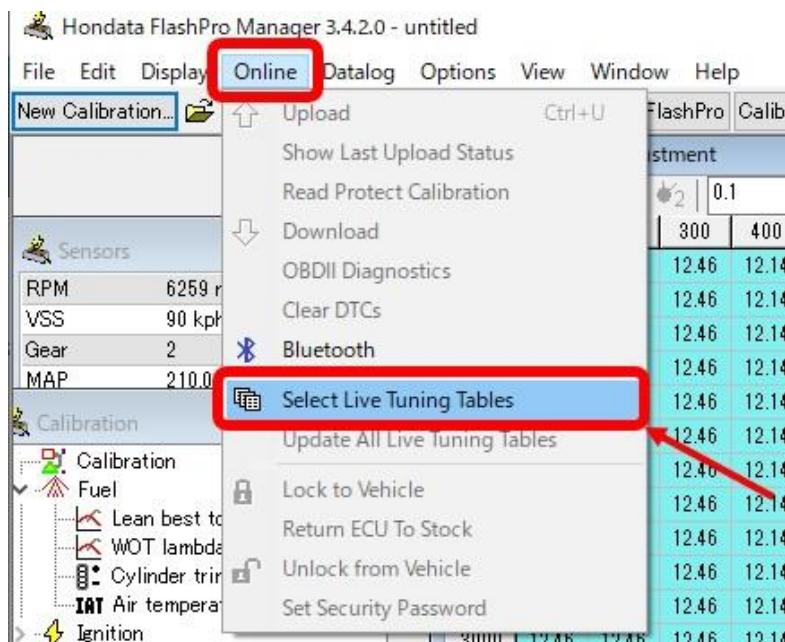
「Display Max」にセンサー最大値を入力します。

J. ライブチューニングの設定

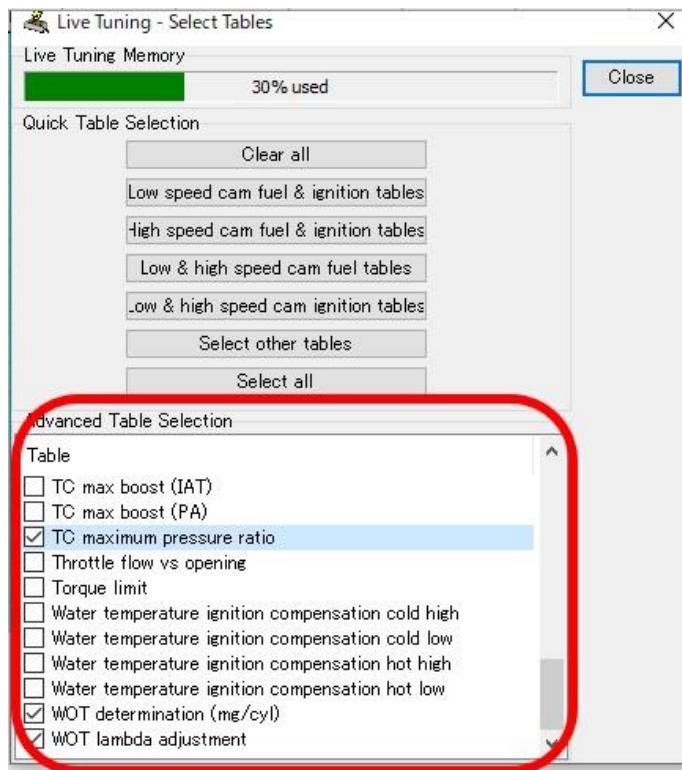
ライブチューニングにより、ECU 内の一部のテーブルをリアルタイムで更新できます。5~10 分のアップロードを待たずに小さな変更がすぐに有効になるため、これによりチューニングプロセスが大幅にスピードアップします。

ライブチューニングは、ECU がフラッシュメモリ (ECU 全体を書き換えない限り変更できない) からテーブル情報を RAM (ECU の実行中にすばやく変更できる) にコピーするように ECU を変更することによって機能します。このコピープロセスは、ECU の RAM がクリアされるたびに、つまり ECU がリセットされるか、またはイグニッションがオフおよびオンにされるたびに行われます。FlashProManager でテーブルを編集しているとき、RAM テーブルが更新される ECU に変更が送信されるため、ECU テーブルはわずか 1 秒で更新されます。

- ① ライブチューニングテーブルの設定をします。
- ② Flashpro 本体を車体側の OBD II カプラに接続します。
- ③ Flashpro 本体とパソコンを USB コードで接続します。
- ④ イグニッション ON にします。
- ⑤ 車両側のデータをパソコンにダウンロードします。 (c. 車両側キャリブレーションの吸出し【Download】の仕方を参照)
- ⑥ <Online> タブをクリックし、<Select Live Tuning Tables>を選択します。



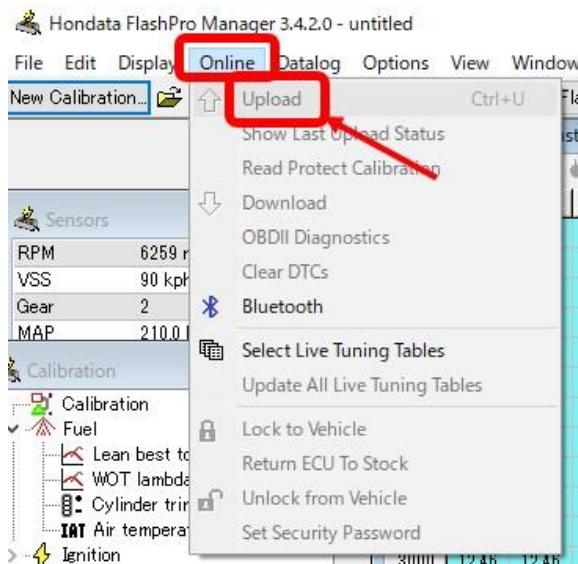
- ⑦ 赤枠の中のライブチューニングしたいテーブルにチェックを入れます。



- ⑧ <Online>タブをクリック、<Upload>を選択し、車両側にアップロードします。（アップロードには5分から10分かかります。）

(注意) 作業中に電圧が低下した場合、ECUが壊れてしまう可能性があります。予備バッテリーの接続を推奨します。

(注意) データのアップロード中に、イグニッションOFFにしたり、OBDIIポートやUSBポートからケーブルを抜いたりしないようにして下さい。

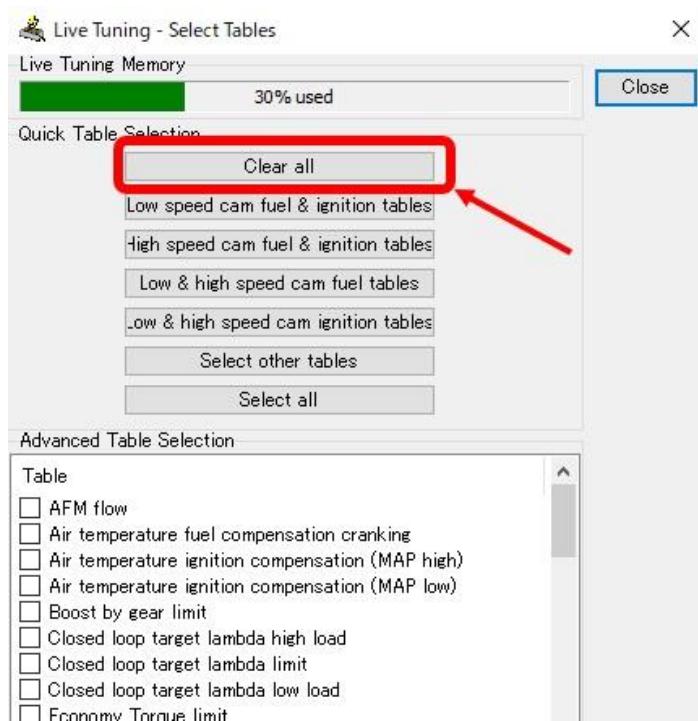


⑨ 調整したいテーブルを開き、【live】アイコンに緑のチェックが付いていたらライブチューニング有効です。

PA	0.526	0.592	0.658	0.724	0.789	0.855	0.937	0.974	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
550	0.588	0.662	0.736	0.809	0.883	0.957	1.045	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174
1000	0.588	0.662	0.736	0.809	0.883	0.957	1.045	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174	1.174
1250	0.613	0.689	0.766	0.842	0.920	0.996	1.088	1.223	1.223	1.223	1.223	1.223	1.223	1.223	1.223	1.223
1500	0.779	0.879	0.978	1.078	1.178	1.279	1.403	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495	1.495
1600	0.850	0.959	1.070	1.180	1.289	1.400	1.537	1.614	1.614	1.614	1.614	1.614	1.614	1.614	1.614	1.614
1700	1.005	1.136	1.264	1.395	1.525	1.655	1.816	1.907	1.907	1.907	1.907	1.907	1.907	1.907	1.907	1.907
1900	1.011	1.142	1.272	1.403	1.534	1.664	1.826	1.918	1.918	1.918	1.918	1.918	1.918	1.918	1.918	1.918
2000	1.012	1.142	1.272	1.404	1.534	1.666	1.828	1.919	1.919	1.919	1.919	1.919	1.919	1.919	1.919	1.919
2250	1.007	1.139	1.272	1.407	1.539	1.672	1.838	1.930	1.930	1.930	1.930	1.930	1.930	1.930	1.930	1.930
2500	1.048	1.189	1.329	1.468	1.609	1.749	1.923	2.019	2.019	2.019	2.019	2.019	2.019	2.019	2.019	2.019
2750	1.309	1.445	1.582	1.717	1.854	1.989	2.158	2.266	2.266	2.266	2.266	2.266	2.266	2.266	2.266	2.266
3000	1.350	1.492	1.633	1.776	1.917	2.059	2.234	2.346	2.346	2.346	2.346	2.346	2.346	2.346	2.346	2.346
3500	1.455	1.613	1.770	1.928	2.085	2.243	2.439	2.561	2.561	2.561	2.561	2.561	2.561	2.561	2.561	2.561

⑩ 各テーブルのライブチューニングが完了したら、下記の手順で必ずライブチューニングの解除を行ってください。

⑪ ライブチューニングの解除



⑫ 再度<Select Live Tuning Tables>を開き

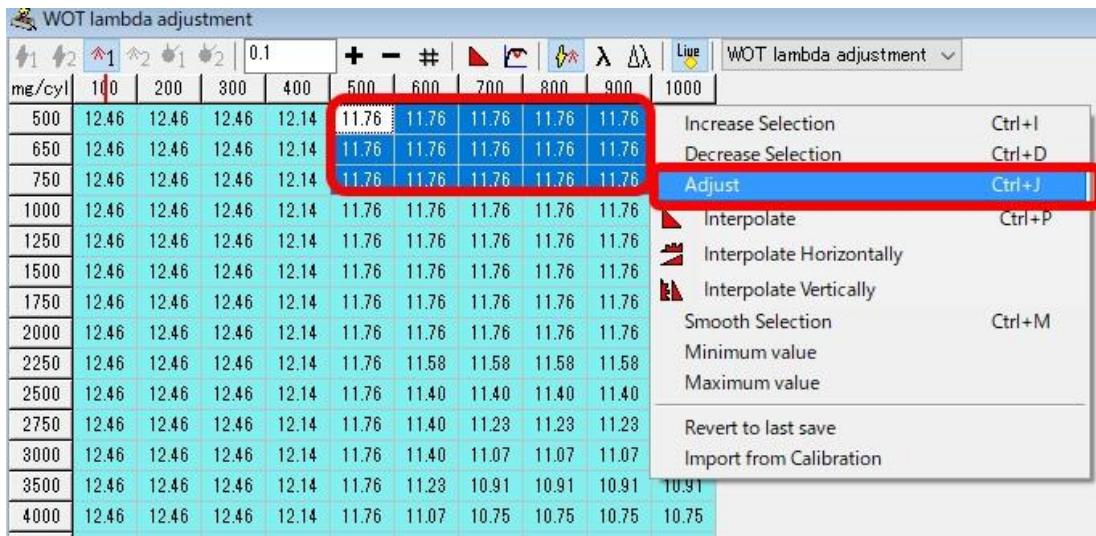
(J-⑥参照)、「Clear All」をクリックしすべて解除します。

⑬ 車両側 ECU にアップロード (J-⑧参照) して解除完了。

K. チューニングテーブルの数値の調整の仕方

①調整したい範囲を選択し右クリックをします。

②<Adjust>をクリックします。

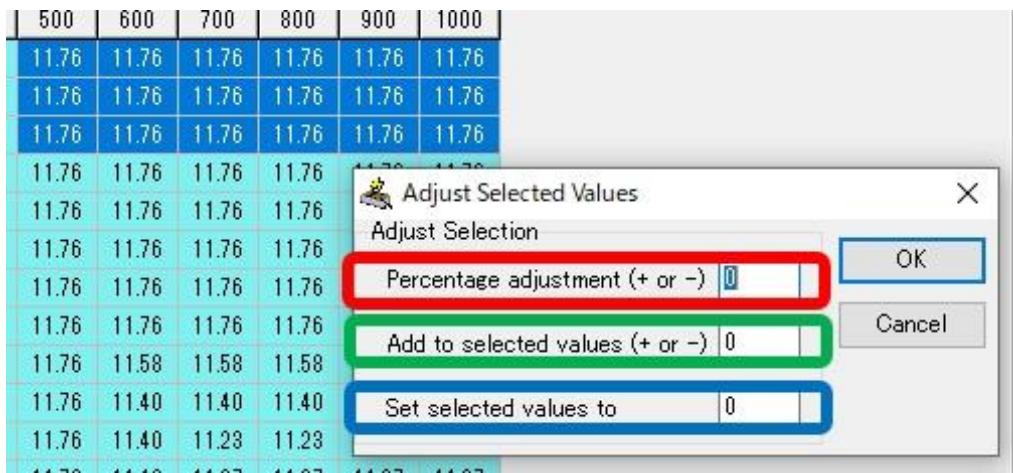


③調整の仕方は以下の3種類の方法のいずれかを選択し入力します。

「Percentage adj」：(例)+20と入力すると、今の数値から~~20%増~~します。

「Add to selected values」：(例)+20と入力すると今の数値に~~20プラス~~されます。

「Set selected values」：(例)+20と入力すると数値が~~20~~になります。

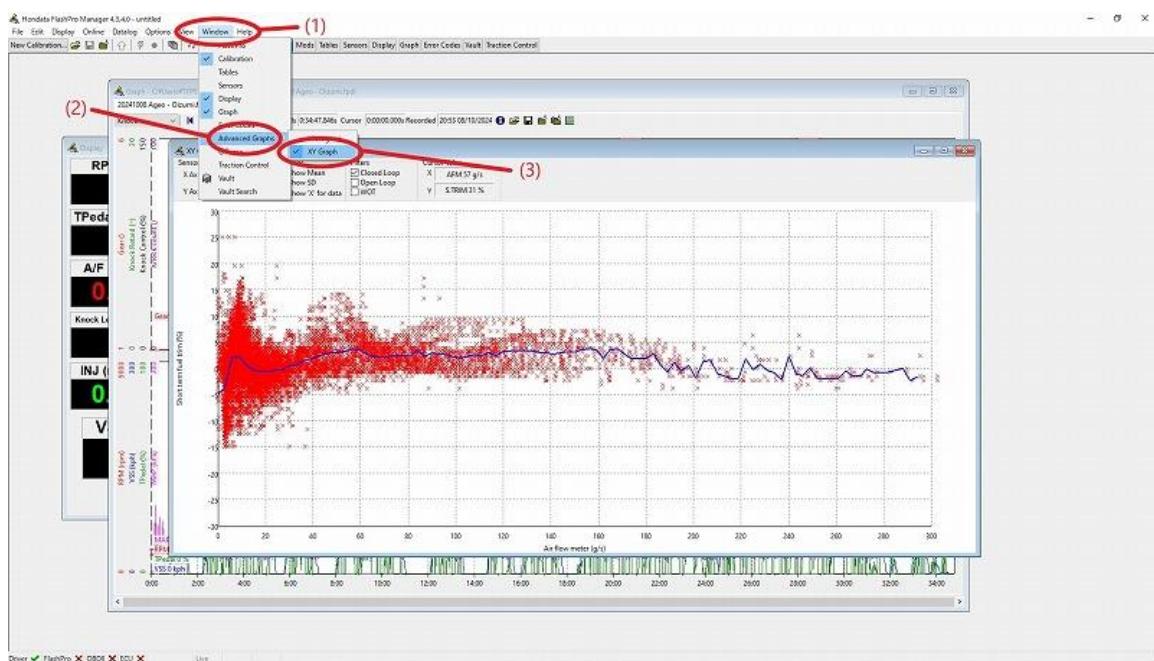


L. エアフロセンサーの校正の仕方

クローズドループ(ハーフスロットル、低負荷時)時、ECUはAFM(エアフロセンサー)の読み取り値を使用して燃料を計算します。通常、社外インタークシステム及びエアクリーナーに交換した場合、エアフローを正しく読み取っていないことがあります。FlashProではエアフローをより正確に測定するために以下の手順で再校正することができます。

- ① データログをとる※暖気後、約2~30分ほど走行する。
- ② データログを確認する。

- (1) Window を選択
- (2) Advanced Graphs を選択
- (3) XY Graph を選択

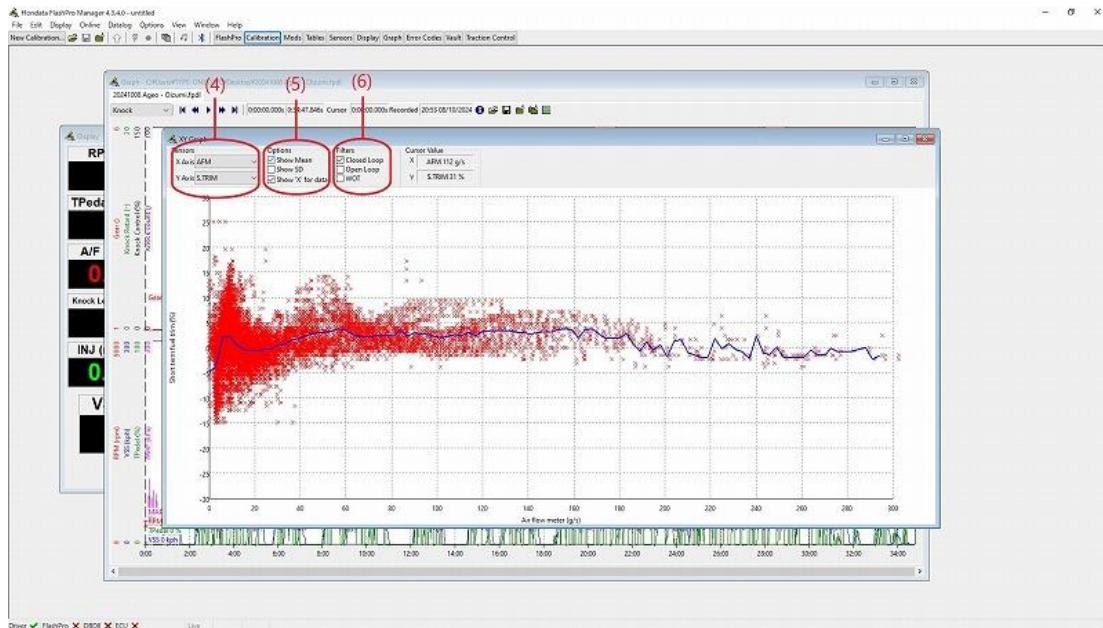


(4) Sensors → X Axis 『AFM』を選択

Y Axis 『S.TRIM』を選択

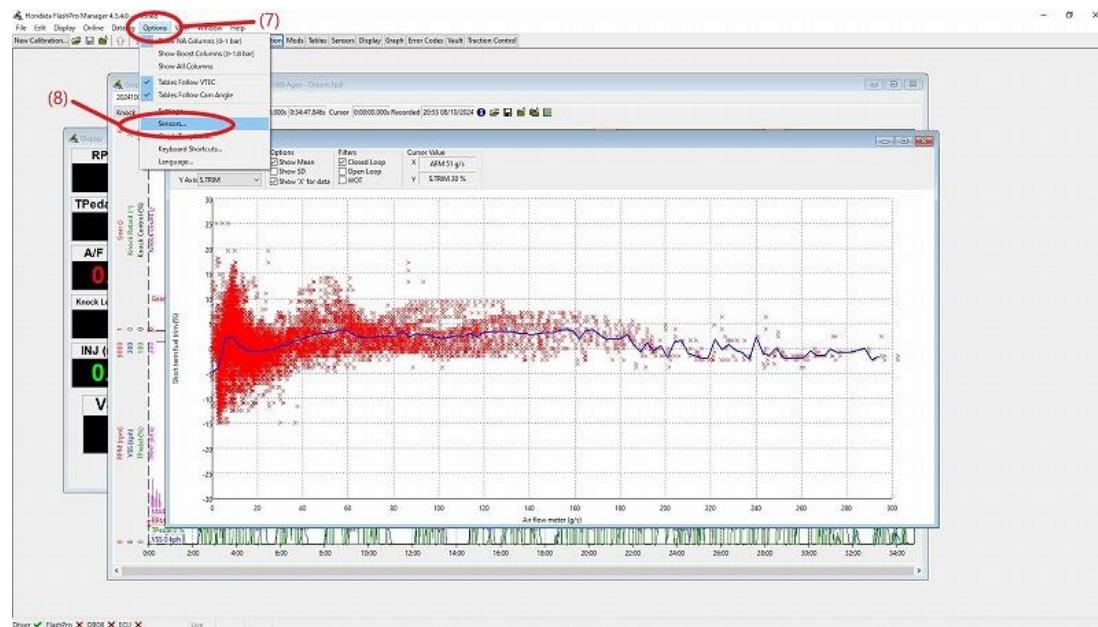
(5) Options → Show Mean および Show '×' for data にチェックを入れる。

(6) Filters → Closed Loop にチェックを入れる。



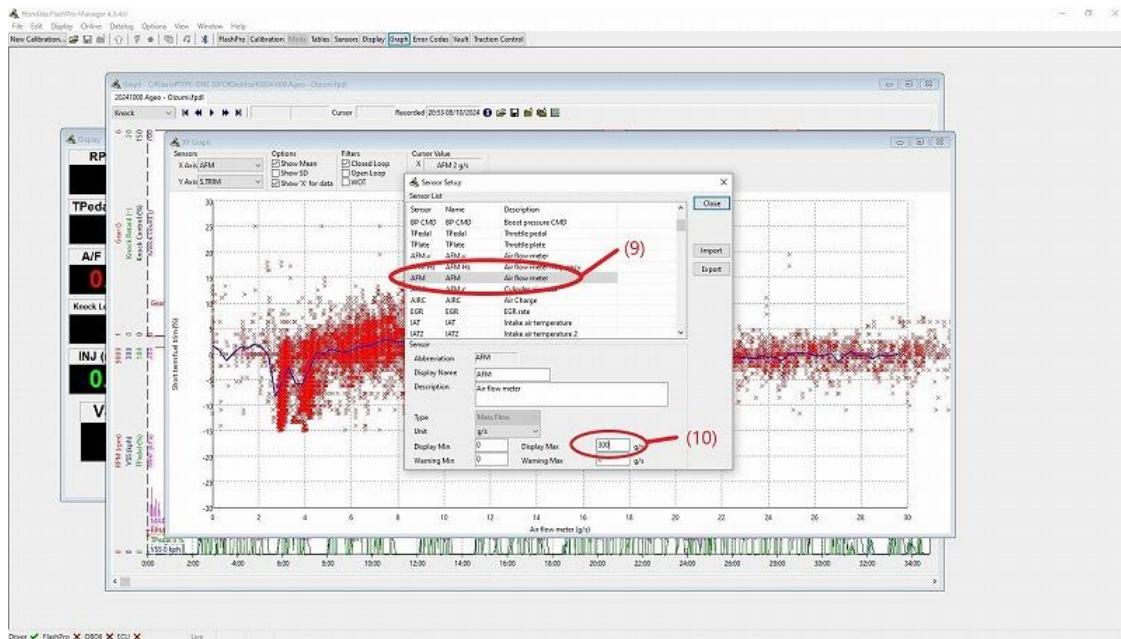
(7) Options を選択

(8) Sensors を選択



(9) AFM を選択

(10) Display max 『300』に変更して close を選択



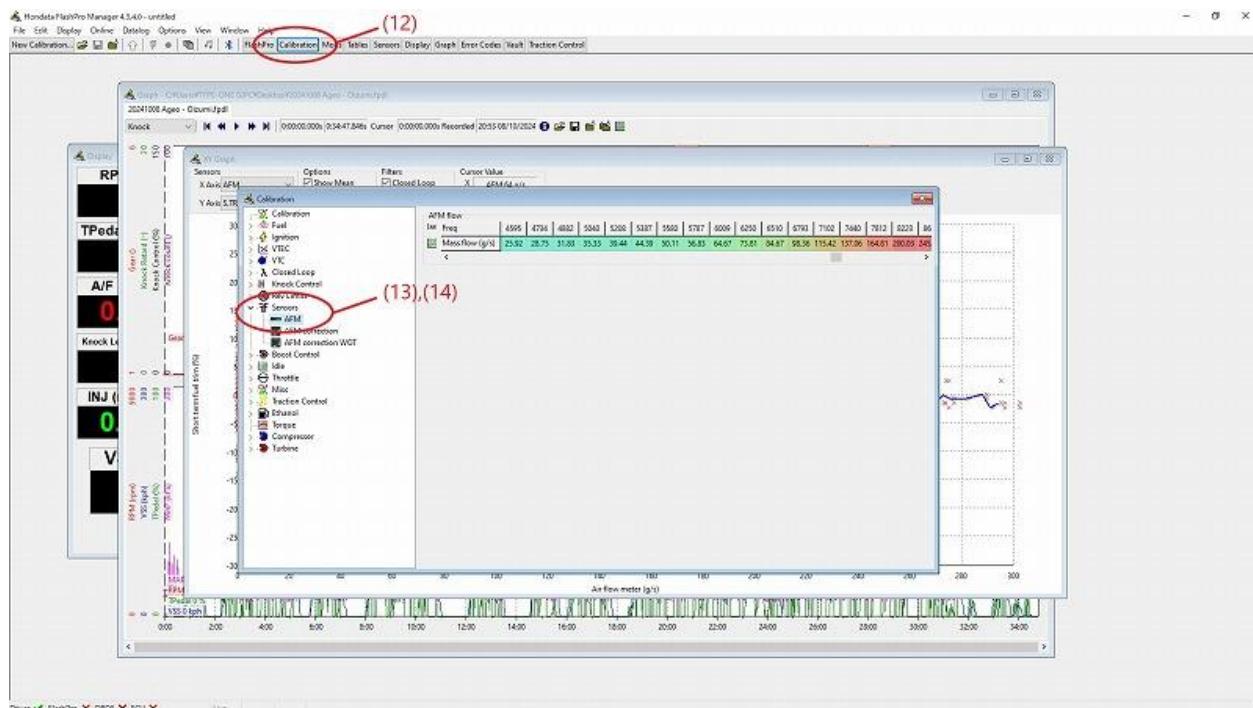
(11) Y 軸の S.TRM の%を確認する。5 %以内なら調整不要

※ 5 %以上の場合、調整が必要



以下、調整方法

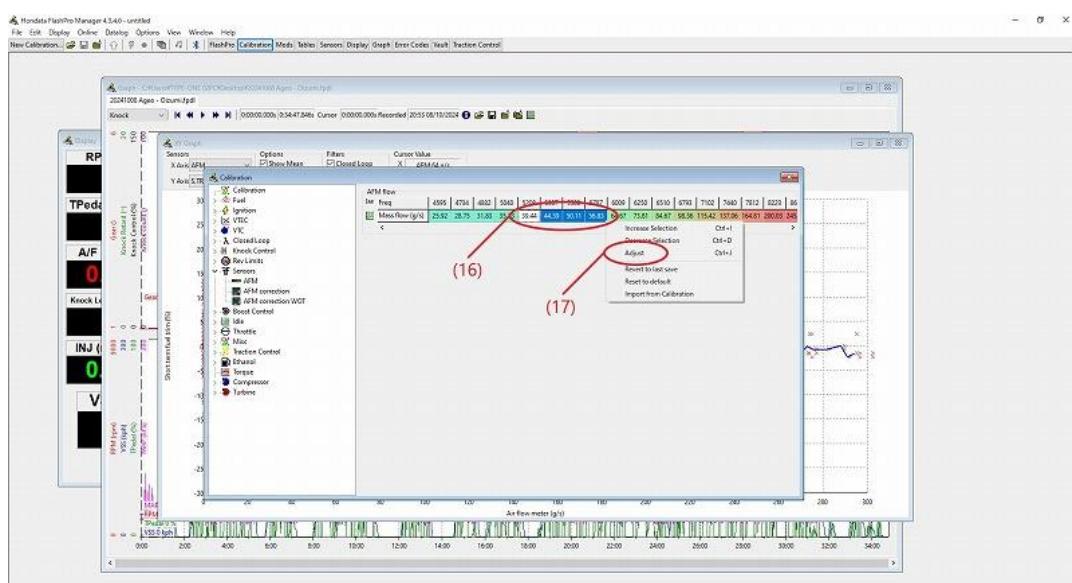
- (12) Calibration を選択
- (13) Sensor を選択
- (14) AFM を選択



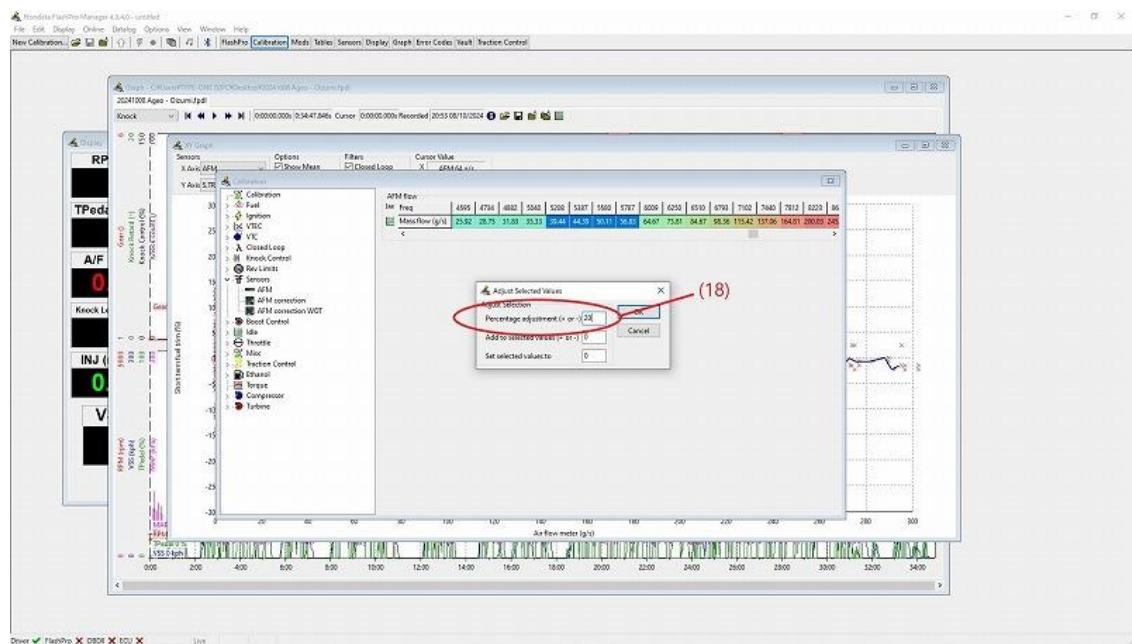
(15) AFM flow の Mass flow (g/s) 数値を調整する

(16) 調整したい範囲を選択する。

(17) 右クリック後、Adjust 選択する。



(18)増減させたい数値を入力する。



【例】手順(3)で表示したXYグラフを確認し、下図1のようにX軸(横方向のAir flow meter (g/s))の40~60の範囲でY軸(縦方向のShort term fuel trim(%))が20%となっている場合、下図2のMass flow (g/s)の約40~60の範囲である赤丸部の数値を+20%増やし、逆に-20%となっている場合は、-20%減らす。

※Mass flow (g/s) = Air flow meter (g/s)

図1.

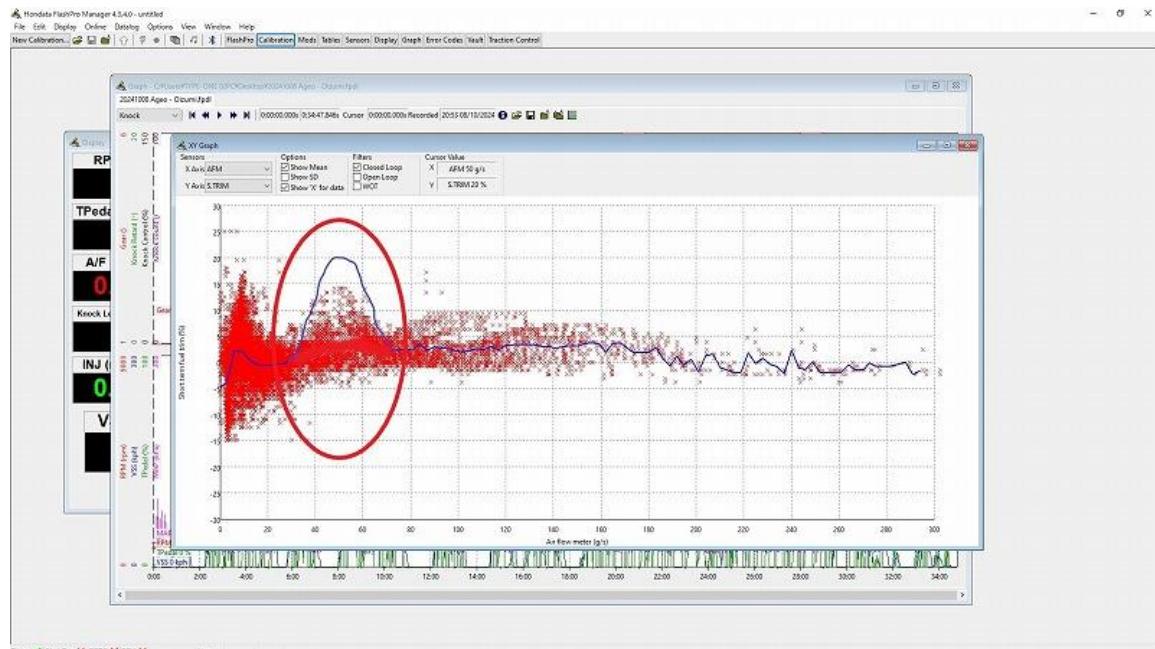
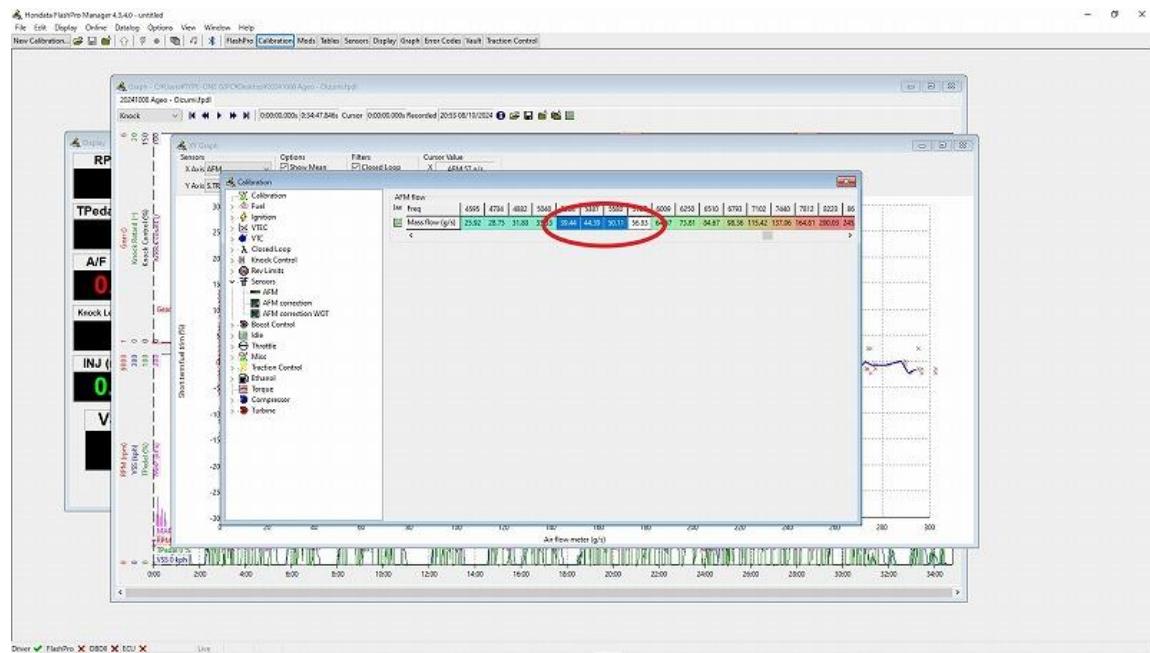


図2.



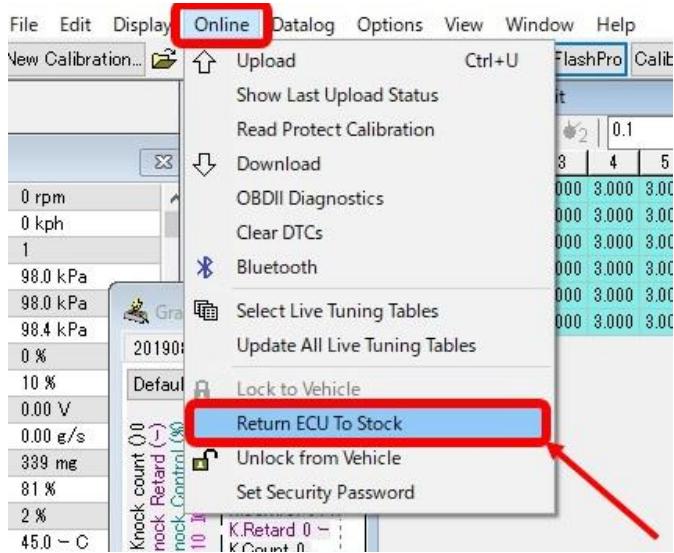
(16) 調整後、データを保存して車両に書き込む

(17) 書き込み後、試乗をして再度データを取り確認する。

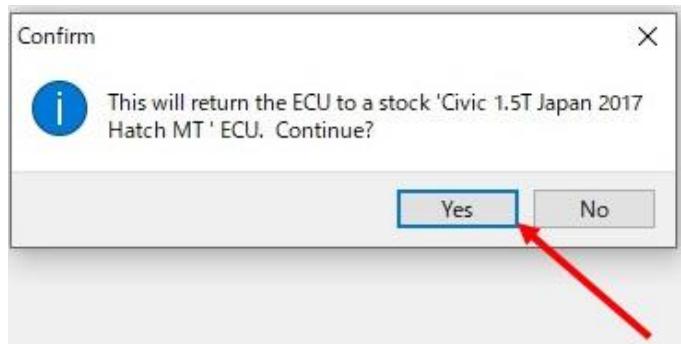
※S.TRIM が 5 %以内になるまで繰り返し調整する。

M. 車両ロックの解除の仕方

- ① Flashpro 本体を車体側の OBDⅡ カプラに接続します。
- ② Flashpro 本体とパソコンを USB コードで接続します。
- ③ イグニッション ON にします。
- ④ <Online> タブをクリックし、<Return ECU To Stock> を選択します。

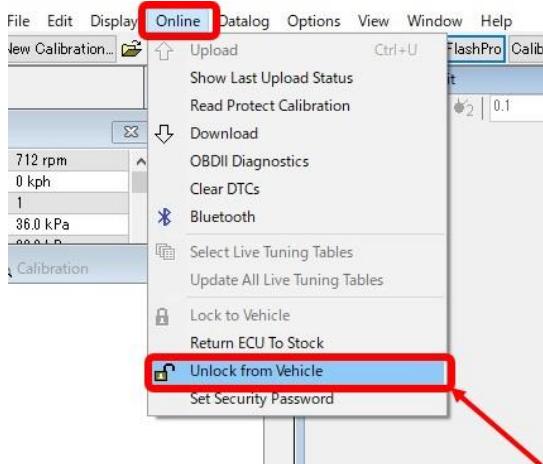


- ④ 「Yes」をクリックして、まず車両側のECUを純正に戻します。 (5~10分掛かります。)



- ⑤ インターネットに接続できる環境で作業を行って下さい。

- ⑥ <Online>タブをクリックし、<Unlock from Vehicle>をクリックします。



- ⑦ チェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックします。



N. 條足

① FlashPro 本体を車両 OBDⅡカプラに接続したままにする必要があるケース

- ・車両側 ECU にアップロード及びダウンロードする時。
- ・車両の各センサー値をパソコンに表示する時。
- ・データロギングする時。
- ・スマートフォンで Hodata Mobile (ディスプレイ) を利用する時。

②インターネットに接続できる環境での作業が必要なケース

- ・FlashPro インストール時。
- ・FlashPro manager のソフトウェアを Update する時。
- ・車両のロックを解除する時。